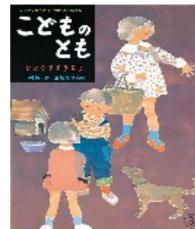


発行所：松居直コレクション
プロジェクト
代 表：金戸 美紀子
事務局：石川県小松市
小馬出町10-3
空とこども絵本館
☎ 0761-23-0033
bookrin@city.komatsu.lg.jp

【活動方針】①絵本の楽しさを伝える 〈親子読書の奨励〉 ②絵本の歴史を学び、進むべき方向を考える 〈絵本文化の研究〉
③市が所有する知的財産として、次世代に正しく伝える 〈絵本文化の継承〉

リードというよりも雰囲気がとつてもいいなあ、とってもナイーブであたたかい人だなあとう感じを持っておりました◆「子どものとも」としては、保育だとか家庭での子どもの生活だとかと密着した内容の本を出そうというふうに思いましたものですから、子どもをとってもあたたかく表現する、しっかりしたデッサンで表現できる岩崎

これが岩崎ちひろさんが初めて1冊の絵本をお書きになつた作品です。岩崎さんの絵は、いろいろな絵雑誌で見て



小林純一作/岩崎ちひろ画
12号/1957年3月号

あたたかい表現

◆その頃岩崎さんは、まだ息子さんの松本猛さんが幼稚園の年中ぐらいの頃でした。「家でなかなか仕事ができないんですね。どつかの旅館に缶詰にしてください」と、ご自分からおつしやつたんですよ。それで、近くの旅館で10日間ほど缶詰にさせさせていただいて出来たん

書きになつていた小林純一先生に“童謡”を
中心にして物語を書いていたので、それを
絵本にするということを致しました。

辺り全部練馬大根の畑だったんですよ。そんな中にぽつんと家が建ってて、ほんとに静かな自然に恵まれたところにアトリエのような、そんな贅沢なお家じやありませんでしたけど住んでらして、そこで仕事をしてらっしゃいました。

◆その後、練馬のお宅に通させていただきました。今、美術館のあるところです。ちひろ館の空間東京

旅館に缶詰で製作

◆ しかしながら、私は
「しっかりした物語性
と、その物語を絵でしっ
かりと表現することが
絵本の生命だ」と思つ
ていたもんですから、
その後、実は岩崎さん
に私は絵本をお願いし
てないんですね◆ちひ
ろさんの絵は、どちら
かというと叙情的で、
浮世絵以来の、明治以

に立つような絵本を作
ろうと、再び岩崎さん
に書いていただきまし
た。子どもの集団生活
が、非常によくとらえ
られていると思います。

子どもが満足する絵本に

どもより大人の方が喜ぶんですよ。人が喜ぶってことはすごいことですから、それはそれでいいんです◆子どもは、しつかりと描いてらつしゃるんです。大人は鑑賞するってこと、見るってことで満足しますけど、子どもは見るだけでは満足しません。そこに物語がなければ、子どもは絵本を見る時満足しないんですね。

の絵本で子どもに物語を語るとなると、なかなからその物語性が前面に出で来ない。ですかどうかというと、子

が喜ぶつ
いことで
はそれで
すともは、
いてらつ
。大人は
こと、見
満足しま
もは見る
なければ、
を見る時
んですね。
(つづく)

の絵本で子どもに物語を語るとなると、なかなからその物語性が前面に出で来ない。ですかどうかといふと、子

「いざものとも」を彩る作家と画家たち

～保育のお役に立つようなテーマで～



集団生活を生き生きと

The book cover features a vibrant illustration of several children of diverse ethnicities playing together on a grassy field under a clear blue sky. The title 'こどものとも' is written in large, stylized Japanese characters at the top, with 'SAGE JUNI' and '絵本 1年生' below it.

小林純一作/岩崎ちひろ画
16号/1957年7月号